令和５年１月 23 日

世田谷区立二子玉川小学校
校長　　今福　眞和　　様
学校運営委員会
委員長　蒲生　美生　　様

二子玉川小学校関係者評価委員会
委員長　中村　知子

令和４年度　学校関係者評価委員会　提言書

世田谷区立二子玉川小学校学校関係者評価委員会において、学校関係者アンケート（世田谷区の共通項目と本校独自項目）ならびに学校自己評価点検をもとに、本年度の教育活動全般に関する評価を行った。本校は、「笑顔と元気と優しさあふれる学校」を学校運営方針とし、子どもたちが居場所や活躍の場、お互いの関わりを大切にし、努力や成長を認めることで「自分を大切にし、周りの人を大切にする気持ち」を育むという非認知能力の育成を目指して学校運営を行った。今年度も、社会状況に合わせて、安全を担保した学校運営を行うために、様々な対応が必要となる一年であった。また、子どもの可能性を伸ばし社会生活の基礎を育む学校として、子どもたちが従来の学校生活で得られる学びや充実感や楽しみが妨げられることがないよう、子どもたちの成長のために学校運営が行われた一年でもあった。また、「子どもの可能性を伸ばし、社会生活の基礎を育む学校」「教職員が支え合い高め合う学校」「家庭・地域とともにある学校」ということを常に念頭に置き運営を行った一年でもあった。子どもたち一人ひとりの可能性を伸ばし、人間性豊かな児童を育成することを目指している本校の次年度以降の改善のために、今年度の結果と本委員会の提言を活かして頂くべく本提言書をまとめる。

このほか、学校関係者アンケートの調査方法が質問紙からインターネットを使用した調査方法へと今年度から変更された。このような、調査方法の変更が、経年変化の把握において少なからず影響が出ていることも踏まえて本提言を作成している。

Ⅰ．アンケート調査実施概要

１．学校関係者アンケート

対　象：保護者、児童、地域
実　施：令和４年 11 月２日～11 月 13 日

配布数：	656 件（全児童保護者）	194 件　（5・6 年児童）	31 件（地域）
昨年　：	675 件	212 件	30 件
回答数：	306 件（全児童保護者）	194 件（5・6 年児童）	19 件（地域）
昨年　：	589 件	212 件	19 件

２．学校自己評価点検

対　象：本校全教員　２８名

Ⅱ．学校関係者評価委員会から評価提言

１．学習指導について

5・6 年の児童に対して実施した児童アンケート（以下、児童アンケートとする）においては、4 設問中、3 設問において肯定的評価が 85%を超えている。

特に、「授業では、考えたことを話し合ったり発表しあったりする機会がある」の肯定的評価は、児童アンケートでは 92.7%（昨年 95.3%）と昨年より微減しているが 90%台という高い数値を得ている。次に、「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」の肯定的評価は、児童アンケートでは 85.6%（昨年 92%）と昨年より 6.4%低下している。この設問の保護者アンケートの昨年度の肯定的評価においても 67.3%（昨年 72.8%）昨年より 5.5%低下しているが、一昨年度の肯定的評価は、39.8%であったため、昨年度とほぼ同じ評価が得られていると推測される。このほか、「先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」の肯定的評価は、保護者アンケートでは 74.5%（昨年 64.7%）と昨年より 10%程度増加している。児童アンケートでは 88.6%（昨年 94.3%）と昨年より 5.7%低下している。ただ、この児童アンケートの結果においては、5 年生と 6 年生の肯定的評価の数値に 8%程度の差（5 年生：85.6%、6 年生：93%）があるため、学年による相違が出ていることがわかる。このほか、児童アンケートにある「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している」は 83%（昨年 81.6%）と昨年より 1.4%微増しており、同様に保護者アンケートにおいても 61.2%（昨年 54.9%）と昨年より 6.3%増加している。

これらの結果から、授業の運営方法の設問においては、保護者と児童の肯定的評価の数値に差異があることがわかる。ただ、昨年よりも保護者と児童の肯定的評価の数値の差が小さくなっており、保護者が授業での学習の状況がわからないという昨年の課題への対応結果が数値に表れていることが推測できる。ただ、「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している」と言う設問においては、児童アンケートと保護者アンケートの肯定的評価の数値に 20%程度の差が出ており、保護者へのさらなる情報提供が必要と考えられる。

保護者への情報提供の場である授業参観や学校公開は、少しずつ増えてきてはいるが、まだ、新型コロナウィルスのためこれまでのように実施できていないことが、これらの結果の要因となっていることが推測される。授業参観や学校公開以外に、ホームページや学校だより・学年だよりなどを通して、子どもたちの授業の様子や内容について、これまで以上に、情報を保護者に提供する必要があるのではないかと考える。

また、「先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」の学習指導についてのアンケート項目の肯定的評価において、保護者アンケート 74.5%と児童アンケート 88.6%と 14.1%の差があるが、一昨年度は 30%程度の差があった。これに関しては、子どもたちの授業の様子を保護者に伝える学校の工夫が成果となって表れていることが伺える。

この学習指導についての設問の回答からは、本校の授業が、熱意を持った教員が子どもたちをしっかり指導し、工夫した授業が行われていることがわかる。このような教員と子どもたちの学びの様子を保護者に伝える情報発信の手法をさらに検討して頂きたいと考える。

２．生活指導について

児童アンケートにおいては、すべての設問において肯定的評価が 85%を超えている。ただ、児童アンケート「私は、先生に注意されたことは、理解できる」は 88.2%（昨年 92.9%）と 4.7%低下していた。この設問の保護者アンケート「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている」の肯定的評価は 74.2%（昨年 72%）昨年より 2.2%微増している。この他のアンケート項目においても、児童アンケート「私は、学校のきまりを守って、行動している」の肯定的評価は 85.1%（昨年 85.8%）、「学校のきまりを守らない児童に先生は注意している」の肯定的評価は 87.6%（昨年 86.8%）といずれも昨年度とほぼ同じ評価を得ている。

これらの結果から、児童が生活指導における教員の指導に納得し、教員を信頼していることがわかる。また、保護者アンケート「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている」については、今年（74.2%）も昨年（72%）と肯定的評価の数値に変化がなかったが、この設問の「わからない」という回答が 9.2%（昨年 16.8%）と 7.6%低下している。これらのことから、コロナの影響で保護者に授業など学校での子どもたちの様子を見て貰う機会は減ってはいるが、教員の指導や学校での指導内容について保護者に伝える工夫を行っている本校の教職員の努力が数値に表れたと推測できる。

このほか、地域アンケート「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」の肯定的評価は、89.4%（昨年 100%）から 10%程度低下したが、地域からの本校の生活指導に対する一定の評価が得られていることがわかる。

これらの結果から、教員と子どもたちの間の強い信頼関係とそれに基づいた本校の教育目標に沿った生活指導が適切に行われていることが推測できる。子どもたちは、教員を信頼し、その指導内容や対応に納得し、学校生活を送っている。また、この児童と教員の信頼関係について、保護者も理解していることが伺える。学校での生活指導の内容や方法についての情報を保護者に伝えるための工夫が行われ、一定の成果が得られている。これらを踏まえて、さらに、保護者に情報を適切に伝える手段の検討を行って頂きたい。また、次年度以降も、子どもたちとの信頼関係の構築と、その信頼に基づく指導を続けて頂きたい。

３．学校行事（運動会・学芸会・宿泊行事など）について

この項目については、児童アンケート、保護者アンケートのすべての設問において肯定的評価が 75%を超えている。

特に、保護者アンケート「学校行事は、子どもにとって楽しい」は 91.9%（昨年 93.1%）、「学校行事は、子どもにとって達成感がある」は 91.8%（昨年 91.5%）と高い評価を得ている。

ただ、児童アンケート「学校行事は、楽しい」は 84.1%（昨年 92.5%）、「学校行事は、達成感がある」も 77.8%（昨年 88.2%）と、どちらも 10%近く肯定的評価が低下している。これらの設問に関しては、学年間の差異（「学校行事は、楽しい」5 年生：80.7%、6 年生：88.2%）、「学校行事は、達成感がある」5 年生：73.4%、6 年生：83.5%）がある。

これらの結果から、保護者からは高い評価を得ているが、児童においては学年によって差があることがわかる。コロナで活動が制限された昨年より少しずつ学校行事が増えたことによる満足や充足感の感じ方の差異がこれらの結果に反映されているのではないかと考えられる。

このほか、児童アンケート「先生は、児童の意欲を大切にしている」は 79.9%（5 年生：75.2%、

6 年生：85.8%、昨年 82%)、保護者アンケート「本校は、子どもの意欲を大切にしている」は 79.1%（昨年 80.6%）と昨年とほぼ同じ肯定的評価が得られている。

これらのことから、本校が子どもたちの思いを大切にしながら学校行事を実施し、子どもたち・保護者が主体的に行事に参加し、それらを楽しみ、達成感を得ていることがわかる。

今年度も、コロナ対策をしっかり行いながら川場村の移動教室、クリーンタウン作戦、フラグ作りなどの行事を地域と連携して、安全に実施された学校行事が数多くあった。

子どもたち一人ひとりが充実感を持てる学校行事を運営するために学校・保護者・地域が一体となって協力する姿勢や、安全を何よりも大切に考え、学校行事の準備・実施している本校の姿勢をこれからも維持して頂きたい。

４．キャリア教育について

児童アンケートにおいては、3 設問中、2 設問において肯定的評価が 70%を超えている。このキャリア教育についての設問は、一昨年から新たに設定された項目になる。

児童アンケートでは、「目標をもち、その実現に向けて努力している」は 74.7%（昨年 76.9%）、「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある」は 71.7%（昨年 77.4%）となっている。これらのキャリア教育に関する児童アンケートの設問「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある」の肯定的評価においては、5 年生 63.3%、6 年生 82.4%と学年による差が出ている。「目標をもち、その実現に向けて努力している」という児童アンケートの設問に関しては 5 年生 73.4%、6 年生 76.4%と大きな差異はない。また、「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある」という設問に対して「わからない」という回答は 5 年生 15.6%、6 年生 8.2%となっており、中学進学への意識の差などが学年間で出ていることが推測される。

次に、これらに関する保護者アンケート「本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している」の肯定的評価は 57.2%（昨年 60.1%）、「本校では、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」の肯定的評価は 39.2%（昨年 48.5%）と低下している。また、これらの設問に対して、保護者と児童の肯定的評価の差が 30%以上ある。

このほか、児童アンケート「区立中学校に関する情報が提供されている」が 60.8%（昨年 41.7%）と昨年より 20%近く肯定的評価が増加している。この設問に関しても 5 年生（53.2%）と 6 年生（70%）の学年間に差がある。また、この設問に対して「わからない」という回答の数値も 5 年生は 22.9%と高い。これは、コロナの影響により「多摩川の学び舎」の活動が対象学年以外に十分に実施できていないことに起因すると推測される。

これらの結果を踏まえ、キャリア教育という新たな教育活動については、その教育活動の内容を保護者に周知し、理解を深めていく努力を続けていく必要があると考える。児童アンケートの結果は、区立中学校の情報提供に関する設問以外は、70%台を維持している。これらのことからも、子どもたちは、自分の目標や将来についての意識は高いと思われる。ただ、区立中学校に関する子どもたちや保護者への情報の提供の方法については更なる工夫が必要と思われる。

このキャリア教育については、新しい教育でもあるため、より丁寧に説明を行い、キャリアについての保護者の理解を深める努力をして頂きたい。

５．職員について

児童アンケート、保護者アンケートのすべての設問において肯定的評価が 70%を超えている。

児童アンケート「先生たちは、ていねいに指導してくれる」は 89.2%（昨年 91.5%）は昨年とほぼ同じ評価を得ている。児童アンケート「先生たちに相談できる」は 73.7%（昨年 77.3%）と 3.6%微減している。ただ、この設問に関しても学年間の差異（5 年生：85.4%、6 年生：94.1%）があるため経年変化を見ていく必要がある。

次に、これらに関する保護者アンケート「本校は、丁寧に指導をしている」は 80.1%（昨年 81.6%）、「本校は、子どものこと相談しやすい」は 76.5%（昨年 77.6%）と 1%程度の微減のため、ほぼ昨年と同じ評価を得ていると考えられる。

これらの結果から、この設問に対しては、保護者、児童ともにとても 70%以上の高い評価を示しており、教員の指導および本校の指導に対する満足度の高さと安定した評価を得ていることが推測される。

これらの結果は、校長、副校長をはじめとする教職員の努力が保護者に評価された結果と考えられる。今後も、さらに、子どもたちや保護者との信頼関係を深めることができるよう教育活動に取り組んで頂きたい。

６．学校全般について

児童アンケートにおいては、5 設問中、2 設問が昨年新たに追加された設問になる。昨年、新たに追加された設問、児童アンケート「学校は好き」の肯定的評価は 77.4%（昨年 81.5%）、「私は、塾で学習している」が 70.6%（昨年 69.0%）であった。このほかの設問としては、児童アンケート「学校生活は、楽しい」は 87.7%%（昨年 88.2%）とほぼ同じと考えられる数値であった。児童アンケート「私は、家庭で宿題や e－ラーニングでの学習をしている」は 69.6%%（昨年 71.4%）であった。この設問においては、一昨年と昨年との肯定的評価に 17.3%の差があったが、コロナに対応した学習方法が安定したため、数値が安定して来たことが推測される。

次に、保護者アンケート「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」の肯定的評価は 88.9%（昨年 88.4%）、「子どもは、家庭で自主的に学習をしている」は 62.8%（昨年 65.5%）という結果と昨年とほぼ同じ評価を得ていることがわかる。また、「本校の教育活動に満足している」は 76.8%（昨年 73.9%）という設問は、一昨年から肯定的評価が増加している。「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」は 71.6%（昨年 71.1%）とほぼ同じ評価を得ている。

今年は、「学び舎」に関する設問については、児童と保護者で差異が出た。保護者アンケート「本校は、近隣の（幼）・小・中学校で構成する「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」の肯定的評価は 41.2%（昨年 43.3%）、児童アンケート「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある」は 62.6%（昨年 25.7%）であった。コロナ対策を行いながら実施された瀬田中学校との交流が結果となって児童アンケートの数値に表れていることがわかる。

これらの結果から、子どもたちは学校生活を楽しいと実感し、それを保護者も理解していることはわかる。ただ、「学び舎」に関しては、「学び舎」の交流活動を行うことができた子どもたちとそれらを体験していない保護者の「学び舎」に関する保護者アンケートの「わからない」という回答が 28.8%（昨年 35.1%）となっている。昨年よりも改善されてはいるがまだ高く、保護者十分

な情報を得ることができなかったことが推測される。

これらの結果を踏まえ、子どもたちも保護者も学校生活や本校の教育活動に満足していることがわかるが、今後、子どもたちがさらに学校生活が楽しいと感じられる教育活動を実施して頂きたい。子どもたちの運動発表会など、子どもたちの健康と体力向上のための取り組みなどもこれまで以上に実施できるよう検討して頂きたい。最後に、「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流においては、子どもたちの現在の満足度のさらなる向上と保護者への情報提供の方法の検討と継続に取り組んで頂くことを期待したい。

７．学校からの情報提供について

保護者アンケートにおいては、4 設問中、2 設問において肯定的評価が 89%を超えている。保護者アンケート「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」の肯定的評価が 85.3%（昨年 90.2%）、「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」は 78.1%（昨年 84.5%）と一定の評価を得ている。ただ、「『学び舎』の区立（幼稚園）中学校について情報が提供されている」の肯定的評価は 46.8%（昨年 48.1%）となっており、「わからない」が 19.9%となっている。ただ、「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子がわかる」は 81.4%（昨年 53.9%）と昨年より 27.5%肯定的評価が大幅に増加している。

これらの結果から、コロナ禍の中、実施された学校公開やオンライン型の保護者会など学校側の対応とその情報提供に対する工夫が保護者から評価されたと推測することができる。このほか、学校からの通信（プリント）やホームページ、その他の情報ツールを使用して発信される情報に対しても、保護者が一定以上の評価をしていることが推測できる。ただ、「学び舎」の活動についての情報提供が十分行われていないことに関しては、昨年と変わりがないことがわかる。この「学び舎」に関する設問においては、「わからない」という回答が 19.9%（昨年 25.9%）ある。昨年より 6%改善しているが、「わからない」という回答が多い。

このほか、地域アンケート「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子がわかる」の肯定的評価は 94.7%（昨年 94.8%）、「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている」は 89.5%（昨年 89.5%）と安定して高い数値を得ている。また、「学び舎」の活動について情報提供がされている』は 68.4%（昨年 68.4%）変化がない。「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子がわかる」は 68.4%（昨年 73.7%）と 5.3%低下している。「学び舎」の情報提供や学校公開に関しては、保護者のアンケートと地域アンケートの結果が示す傾向は同じと考えられる。

これらの結果を踏まえ、今年はコロナ対策を行いながら、学校公開や保護者会などを通して、学校での子どもたちの様子を保護者に提供し、保護者への情報提供やコミュニケーションを図った結果が保護者からの一定の評価を得られたと考えられる。今後も、オンラインツールなどの様々な情報ツールを用いて保護者とコミュニケーションを図る以外に、従来からある学校だよりやホームページ、情報提供ツール、連絡帳などを通しての保護者への情報提供をより丁寧に実施して頂きたい。

８．学校運営について

学校運営に対する保護者アンケート「本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている」の肯定的

評価が 71.3%（昨年 78.1%）となっており、昨年度より 6.8%低下している。ただ、この設問の地域アンケートの結果は昨年と全く同じ 94.7%であった。次に、保護者アンケート「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」の肯定的評価が 84.3%（昨年 81.7%）となっており、一昨年より肯定的評価の数値が上昇を続けている。これらの結果から、保護者から一定の評価を得られていることは推測できる。このほか、「地域の意見に対して、学校はていねに説明・対応している」の肯定的評価は 89.4%（昨年 89.4%）と全く同じ結果であった。

これらの結果を踏まえ、これからも学校運営方針を保護者にさらに丁寧に説明する努力と工夫を続けて頂きたい。

９．学校と家庭の連携について

この設問項目は、昨年から新たに追加された項目となる。保護者アンケート「私は、学校公開にすすんで参加している」の肯定的評価は 90.5%（昨年 70.7%）と 20%近く肯定的評価が増加している。また、保護者アンケート「私は、学校行事、ＰＴＡや地域主催の行事などにすすんで協力している」の肯定的評価も 67.3%（昨年 63.2%）と 4.1%増加している。次に、保護者アンケート「私は、今年度の学校重点目標を理解している」の肯定的評価は 46.8%（昨年 48.8%）と 2%低下しているが、「わからない」という回答が 15.7%（昨年 16.6%）となっており、昨年より 0.9%微減している。

これらの結果を踏まえて、学校公開や学校行事、PTA 活動、地域主催の行事などに保護者が積極的に参加していることがわかり、本校と地域、PTA がしっかりと連携していることが数値から証明された。また、学校の重点目標に関しては、重点目標に関する保護者アンケートの「本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている」の肯定的評価が 71.3%となっているため、保護者に重点目標の内容を丁寧に説明するなど、さらなる工夫を行って頂きたい。

１０．地域との連携について

地域との連携に対する保護者アンケートは、３つの設問すべてにおいて肯定的評価が増加している。保護者アンケート「本校は、地域の人や施設を教育活動に活かしている」の肯定的評価は 81.1%（昨年 75.6%）となっている。ただ、地域アンケート「地域の人や施設を教育活動に活かしている」の肯定的評価は 84.3%（昨年 94.7%）と 10%程度低下している。これは、コロナ対策などで地域と連携して行う活動が昨年と同程度であったことなどが要因となっていることが推測される。ただ、どちらも肯定的評価が 80%を超えており、高い評価となっていることがわかる。

次に、保護者アンケート「本校は、地域の活動などに協力的である」の肯定的評価は 83.6%（昨年 79%）、「本校は、地域に情報を提供している」の肯定的評価は 67.3%（昨年 64.9%）と肯定的評価が増加している。

これらの結果を踏まえ、学校・保護者・地域・学校協力者が連携して子どもたちのために充実した活動を子どもたちの安全を踏まえながら、これまで以上に実施することを検討して頂きたい。

１１．学校の安全性について

学校の安全性全般に対する保護者アンケートは、一昨年に、３つの設問すべてが新しい設問に変更された。保護者アンケート「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」の肯定的評価が 82%（昨年 87.8%）となっており、地域アンケートの同じ設問の肯定的評価は 100%（昨年 100%）

であった。また、保護者アンケート「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもたちに安全に関する指導をしている」の肯定的評価は 87.9%（昨年 90.5%）であった。保護者アンケートの肯定的評価は少し低下しているが、一定の高い評価を得ているため、学校の安全性や子どもたちの安全に関する情報が保護者に十分提供されていることが分かる。

次に、保護者アンケート「本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している」の肯定的評価は 70.3%（昨年 82.7%）であった。学校の安全性や学校での子どもたちの安全については、十分理解されていたが、自然災害時の対応についての情報提供については、改善が必要と考えられる。

このほか、地域アンケート「学校は、安全性を高めようと地域と協力している」の肯定的評価は 94.8%（昨年 88.8%）と高い評価を得ている。

これらの結果を踏まえ、学内の環境や子どもたちの安全に伴う様々な情報を保護者に迅速に提供するという現在の姿勢をこれからも継続して頂きたい。また、地域と連携して子どもたちの安全を守るための積極的な姿勢を今後も継続して頂きたい。

１２．充実した授業について

充実した授業に関する独自項目については、「本校では、子どもたちが楽しいと感じる授業が行われている」の肯定的評価は 77.1%（昨年 66.4%）と 10.7%増加している。ただ、地域アンケートの肯定的評価は 79%（昨年 82.3%）と昨年より 3.3%と微減している。また、「本校では、問題の発見、解決に向けた学び（探究的な学び）を目指した授業が行われている」についての肯定的評価は 54%（昨年 58.3%）と 4.3%低下している。同じ設問の地域アンケートの肯定的評価も 73.7%（昨年 70.5%）%と昨年より 3.2%低下している。これらの数値が昨年よりわずかに下回った要因としては、授業の様子を保護者や地域に対して、明確に伝えることができなかったことが考えられる。

これらの結果を踏まえ、子どもたちが「楽しいと感じる授業」が行われているという保護者の評価が高まったことを受け、その努力をさらに続けて頂きたい。また、本校の探究的な学び深める授業を行うために本校が努力していることを保護者や地域に周知する努力を続けて頂きたい。

１３．学校経営方針について

独自項目「本校の学校経営目標『笑顔と元気とやさしさあふれる学校』を知っている」の肯定的評価は 65.1%（昨年 67.5%）と 2.4%微減している。また、同じ独自項目の地域アンケートの肯定的評価は 100%（昨年 88.9%）と 11.1%増加している。学校経営方針に対して地域からの評価は、とても高い。保護者からは一定の評価は得られているが、本校の学校経営目標に対して保護者への周知が弱いことが推測される。

ただ、児童アンケート「二子玉川小学校が『笑顔と元気と優しさあふれる学校』を目指していることを知っている」の肯定的評価は 87.6%と高く、この質問においては、5 年生 86.2%、6 年生 89.4%と差異がない。また、「とても思う」という 5 年生が 59.6%、6 年生が 75.3%という素晴らしい数値を得ている。このことから校長をはじめとする教職員の思いが子どもたちに浸透していることがわかる。

次に、本校の独自項目「本校では、子どもの気持ちや状況を理解することに努力し、保護者への

思いを大切にして、適切な指導や支援を行っている」の肯定的評価は 70.3%（昨年 68.7%）と 1.6%微増している。また、同じ独自項目の地域アンケートの肯定的評価は 89.5%（昨年 94.1%）とこちらも昨年度より 4.6%下がっている。

これらの結果を踏まえ、本校の学校経営目標を保護者に対して、今以上に積極的に情報発信されることを期待したい。また、今後も、本校の教育活動や指導について地域の理解がさらに深まるよう情報の周知のための工夫と改善を行って頂きたい。

１４．学校生活の充実について

独自項目「本校の子どもたちは、あいさつや返事をすることを意識している」の肯定的評価は 77.1%（昨年 78.7%）であった。同じ独自項目の地域アンケートの肯定的評価は 89.5%（昨年 88.9%）であった。数値の微増と微減はあるが、保護者と地域から安定した評価が得られていることがわかる。これは、校長をはじめとする教職員が積極的に朝の挨拶などを実施することで挨拶が習慣化した子どもたちが増えたことが要因と考えられる。

次に、独自項目「子どもたちは『二子玉川小学校４つの約束（うそはつかない・人に親切にする・約束を守る・勉強をがんばる）』を意識して、学校生活を過ごしている」の肯定的評価は 67%（昨年 69%）と 2%低下しているが、これらについては、一定の評価を得ており、そこから二子玉川小学校４つの約束が、保護者に理解されていることがわかる。

次に、児童アンケート「学校生活は楽しい」は、87.7%（昨年 89.1%）と高く、この設問の結果からも、子どもたちが満足した学校生活を送っていることがわかる。

これらの結果を踏まえ、これまで以上に、子どもたちが満足した学校生活を送ることができるように、教職員・地域・保護者が連携して頂きたい。

１５．地域運営学校の取り組みについて

独自項目「本校は、地域運営学校として、地域・保護者・学校協力者等とのつながりを大切にし、みんなで『地域の子』を育てている」の肯定的評価は 72.5%（昨年 70%）であった。同じ独自項目の地域アンケートの肯定的評価は 89.7%（昨年 77.8%）と昨年度より 11.9%上がっている。

次に、「本校は、これまで地域運営学校として、クリーンタウン作戦・かるがもプロジェクト・あいさつ運動など、地域の方や保護者、地域の中学校、高校、大学、地元企業などと連携しながら教育活動を行ってきている」の肯定的評価は 83.4%（昨年 77.4%）と 6%増加している。同じ独自項目の地域アンケートの肯定的評価は 94.4%（昨年 94.4%）と同じ数値であった。

これらは、秋に本校で開催される「大山みちフェスティバル」などの地域と連携して行う活動が 3 年ぶりに実施できたことなどが数値に表れていると考えられる。これまで、本校が積極的に取り組んでいた地域活動を体験できた子どもたちの様子を多くの保護者が実際に目にし、子どもたちと地域や周囲の企業、大学との連携の良さを実感したことがあげられる。

これらの結果を踏まえ、これからも教員・保護者・地域・学校協力者等（中学校、高校、大学）とこれまで以上に積極的に連携を図って活動を行い、子どもたちが自分の学校や住んでいる地域に愛着を持つことができる教育活動の実践に努めて頂きたい。また、このような活動を通して地域や地域の企業・学校関係者との連携が安定して継続され、その良好な関係をさらに深めて頂きたい。

１６．　特色ある教育活動について

独自項目「本校では、環境教育の一環としての『愛鳥活動』や『クリーンタウン作戦』等の地域の学習（生活科、社会科、総合的な学習の時間等）を展開してきている」の肯定的評価は 89.6%（昨年 87.2%）であった。また、同じ独自項目の地域アンケートの肯定的評価は 100%（昨年 94. 5%）と 5.5%増加し、ほぼ上限の数値を得ている。

次に、独自項目「本校の特色ある教育活動は、子どもたちの豊かな心（自分の思いも友達の思いも大切にできる心）の育成に役立っている」の肯定的評価は 76.2%（昨年 75.5%）と 0.7%微増している。また、同じ独自項目の地域アンケートの肯定的評価は 100%（昨年 94.4%）と 5.6%増加し、こちらもほぼ上限の数値を得ている。

これらの結果を踏まえ、本校ならではの教育活動をこれからも充実させ、地域との活動を通して、子どもたちの豊かな心を醸成する教育を実施して頂きたい。そして、人や自然に対する愛情を持ち、心豊かな子どもたちのさらなる育成に期待したい。

Ⅲ．自己評価について

自己評価の方法、結果内容は適切なものであると認められる。学校関係者アンケートなどの結果に真摯に向き合い、それに対する改善方法も適切なものと考える。

これらが、次年度に活かされ、より良い学校運営が行われることを期待する。

Ⅳ．学校関係者評価委員会としての総合所見

今年度のアンケートの肯定的評価の結果は、保護者アンケート、地域アンケート、児童アンケートともに高い数値、微増、微減のものもあったが、一定の評価を得ていることを示すものが多かった。今年も、新型コロナウィルスへの対応を行いながらの授業と学校行事の運営など、子どもたちの安全を最優先したものとなった。ただ、昨年と比べて学校行事や地域と連携した活動が多く実施できたことで、子どもたちの学びや気持ちに良い影響を与えることができたと考える。また、この子どもたちのための活動を保護者や地域、大学、企業が積極的に運営やそのサポートを行うことができた。本校の子どもたちのことを考えての配慮は、子どもたちのことを大切に思う保護者に対しても丁寧に行われ、学内活動、地域との連携した活動に対する不安が払拭され、学校に対する保護者の信頼が今回のアンケート評価の結果から推測することができる。

本校はこれまで多くの教育活動が円滑に実施されており、それらの活動は、常に地域・保護者・学校協力者と協働して行われていた。また、本校では、子どもたちの学びや学校情報の発信が適切に行われるように多くの努力が行われていた。ただ、「学び舎」に対する情報など保護者や子どもたちの学年によって情報の提供が弱いものもいくつかあった。これらの中には、新型コロナウィルスへの対応を考慮したものも多く、本校の教職員の努力と工夫では対応が難しいものもあった。

これらの評価については、今後、新型コロナウィルスが収束し、本校での学びや学校行事、地域と連携した活動が実施されるようになってから判断して行きたいと考える。また、キャリア教育などこれからの時代を生きる子どもたちのことを考えた科目もあり、その対応に多くの配慮と工夫をしながら授業を運営している教員の努力は高く評価できる。学年にあわせてのキャリアを考える授業を運営する教員の工夫は、このようなアンケート結果に数値として表れている。保護者と教員と良

いコミュニーケーションが取れていることによって、保護者に授業の様子や学校運営について理解されていることが本校の魅力の一つになっていることがわかる。

今回の結果の多くは、子どもたちのために最良の授業や学校行事、地域と連携した活動を行いながら、子どもたちの指導を行う教員や学校運営を行う職員をまとめる校長のリーダーシップとそれを支える副校長の努力と工夫の成果であると考える。これからも校長、副校長、教職員が連携して子どもたちのために円滑な学校運営を行って頂きたい。

教育活動においては、本校の学校経営目標である「笑顔と元気とやさしさあふれる学校」をこれからも朝礼などで子どもたちに話し、保護者にも伝え、この目標に沿った指導に対する理解・共感が深まるよう尽力して頂きたい。

これらの教育目標の活動の成果は、今年も保護者や地域から評価されおり、これからも本校の教育活動や授業を通して、子どもたちが自ら学ぶ力を養い、分かる喜び、できる喜びを実感できることを強く願うものである。

次に、地域運営学校としての活動についてであるが、地域や大学、企業と連携した多くの活動が新型コロナウィルスで中止となっていたが、今年は 3 年ぶりに安全に配慮しながら実施された。その良い影響が保護者アンケート、児童アンケートの評価に数値として表れている。地域連携活動を本校とともに長年行っている地域のアンケート結果は、このような連携した活動がない期間も良い結果が得られていた。それは、これまでの地域と本校の信頼関係が形成されていることが要因と推測される。これからも、地域運営学校として積極的に地域と連携した活動を保護者・家族、地域、地域協力者と協働して実施し、子どもたちの充実した教育を行って欲しい。子どもたちのための地域と連携した活動が少しでも多く実施され、本校との連携と信頼関係がさらに深化することを期待する。今後も、保護者、地域、地域協力者等との関係をより強固なものにして頂きたいと思う。このほか、「学び舎」の活動については、子どもたちの交流活動や保護者に対する「学び舎」の情報提供の方法について、今まで以上の改善を行って頂きたい。

最後に、本校の学校経営目標にある「笑顔と元気と優しさあふれる学校」を子どもたちが十分理解している本校において、子どもたち一人ひとりの活躍の場や居場所を大切にしたきめ細やかな教育が今後も実施されることを望みたい。